

幸せを探しているあなたに

公演のあとのむなしさ、 その打ち上げの真実をご存知でしょうか

公演が終わったあと、私は泣いてまた泣きました。「演劇が終わった後、一人で客席に残って照明が消えた舞台を見たことがありますか。音楽の音も、忙しく動いていたセットも、今はみな止まったまま、舞台の上には静寂だけが残っています。やみだけが流れています。孤独だけが流れています...」



13歳でモデルの仕事をはじめ、2009年NYマガジン「注目すべきモデル・トップ10」に選ばれて、世界有名ブランドのランウェイに上がりながら、世界モデルランキングトップ50に入ったキム・ダウル(20才)が2009年11月19日、自宅で首をつって自殺をした姿で発見されました。彼女は、深刻なストレスの中で、憂うつになるときは不眠症に苦しめられて、3日間もベッドの上にいた時もありました。「問題児だった私を理解して受け入れてくれた唯一の場がファッション界であった...でも、今は私の生活を守りたい...」この告白は、彼女が残した最後のインタビューでした。ランウェイ(runway)後に隠されている孤独をだれが知ることができるでしょうか。

4歳の時から40年あまりの間、踊りだけ踊ったという韓国の代表的な専門舞踊家の告白は、演技者の人生の虚構を語ってくれるようです。「40年間、踊りだけ踊ったようで、本当にとっても大変でした。外面的には、本当に多くうらやましがられました。しかし、このような栄光とうらやましさの裏側には、いつも孤独とむなしさと、そして、知ることができないねたみと、そのような悪口に勝ち抜かなければならない苦しみがいつもともにありました。これが暗やみの勢力の働きであるのかどうかも知らずに、公演が終れば訪れる、深刻な孤独と虚脱感をどうすることもできず、舞踊家とともに後始末をして、明け方3時まで打ち上げでずっと踊って歌って送ってきました。公演を終えれば、マスコミや観客は、私のこういう姿が神懸かった人のように完ぺきな公演

をしたと話したのですが、私はその日、もっと大きい孤独を感じる意識から目覚めるのに多くの時間を消費するようになりました。踊れば踊るほど、まるで私でない他の人が踊るようで、私だけでなく、私とともに出演する他の舞踊家にみな尋ねても、ある時点になると、自分が踊るのではなく、本当に私の中に別のたましいが踊るようで、その次に自分自身を忘れてしまうようになると話したことも多かったです。日が経てば経つほど、深刻なうつ病に苦しめられるようになりました。寝られなくて、精神科の治療を受けて、睡眠薬を飲んだりもしました。実際に睡眠薬を飲み過ぎて、病院に運ばれていったこともあります。私は、これが悪霊の働きだということを知らなくて、何のために私がこういう苦痛を味わうのかも分かりませんでした。最高の場で、一番うまく行くとき、事実は私の人生は完全に底まで閉じこめられるようでした。結局、ガンにまでなって、いろいろな話せない困難が本当に多かったので。そうするうちに、自分の人生の苦しみを終わらせるようになった転換点がまさに『イエスがキリスト』という福音との出会いでした」

どうしようもない運命のいたずら、どのようにしませんが 神様を離れたあと、人間に訪れた運命の鎖、そして、その後にかくされているどうしようもない霊的な問題と暗やみの勢力(サタン)の働き、生きていくほど訪れる名前の分からないむなしさと不安、科学的にも、理性的にも理解できない愚かな偶像崇拜の繰り返し、精神的苦痛、迫ってくる肉体の病気、自殺の誘惑と待っている来世の刑罰、再び繰り返すしかない家系の霊的相続...これが事実ならば、私の人生はこれ以上、希望がありません。しかし、聖書は簡単に終わらせる道を知らせています。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒の働き 16:31)。イエス・キリスト!この方こそが、あなたの運命を解放する鍵なのです。

神様が願われる人 個人伝道企画

ジョージ・ミュラーの個人伝道企画 1805年ドイツで生まれて、一生を宣教と孤児の働きに献身したジョージ・ミュラーは、一時、酒と盗み癖で、とても放蕩した時を送っていたのですが、本当に祈るクリスチャンの姿を見て、少なくない衝撃と感銘を受けて、家に帰ったあと、生まれてはじめて神様に祈りをささげました。そして、頭の中に存在しているだけの神様ではなく、生きておられる神様を信じて仕える人生を決断するようになったのです。それから後、彼は一生の働きの中で、人の助けを求めないで、すべての必要を満たしてくださる生きておられる神様を確かにあかしする人生を送りました。ジョージ・ミュラーは、どんなことをする時も、自分の限界とは関係なく、ただそのことが神様のみこころと一致するかを考えました。それが神様のみこころであることが明らかだと感じられれば、100%答えられることを期待する信仰で祈って、ためらいなく挑戦しました。「私は神様に祈った祈り内容をいちいち筆記しておいた。その祈りが、いつ、どのようになされたのか、やはりいちいち確認していった」ジョージ・ミュラーの祈り手帳には、答えが成されるまで1年、2年、3年、10年、いやそれ以上で祈った対象者の名簿と内容が記録されています。ある人のためには50年過ぎるまで、ずっと祈りました。結局、彼が死んだ後に50年間、祈ってきた友人のたましいが救われるようになりました。

私の個人伝道企画 それなら、私はどのように、神様をご覧になるとき、他の人が見るとき、自分自身が見るときに、ふさわしい個人伝道企画を立てられるのでしょうか。今、私の心はいつもどこへ行っていますか。私は、今、何か夢を見ていますか。私は今、どんな人に会っていますか。現場には死んでいくたましいと、苦しんでいる未自立教会と、あちこちに備えられた弟子が待っているのに、私の心はどこへ行っているのでしょうか。私が神様の前で、残った生涯に最も重要な、神様が最も喜ばれることをどのようにすれば良いのでしょうか。神様が最も望まれることは何でしょうか。皆さんに会った人が、皆さんを通して伝道を学んで、祈りを学んで、教会と現場を生かせる人になったら、それがまさに世界福音化の方法の中の方法です。神様は、皆さんがどんな弟子かによって、すべての時刻表を動かされ、にせ物、本物の弟子を付けられます。伝道の根本の中の根本は真の弟子です。

「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます」(マタイによる福音書 6:33)

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの五つの確信

- 1 救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15-16、Iヨハネ 5:10-13)
- 2 祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 導きの確信**：神様は聖霊であなたの中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26-27、箴言 3:5-6)
- 4 赦しの確信**：あなたのすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 勝利の確信**：救われたあなたは、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます

神様の子どもの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされるようにして、私の現場に神の国が臨むようにしてください。

毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。



| 勝利する人生の奥義 | 神様のみことばについて行こう！

一度も行ったことがない人生の道を歩いていくとき 私たちは一度も行ったこともない人生の道を歩いて行っています。行って見たこともない道に行くのに、何について行くのが正確なのでしょう。「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のみことばは永遠に立つ」(イザヤ 40:8)。聖書は、私たちに神様のみことばについて行きなさいと言われていました。どのようにして行けば良いのでしょうか。まず私が今なぜこの状況に来ているのか、なぜ荒野のような人生の中で苦勞をしているのか、事実的な証拠を握らなければなりません。神様を離れた人間、神様の契約をのがしてしまった人間に、現実と未来は苦しみだけです。福音の中で事実を見なければなりません。そして、必ず福音の中で祈りを通して、霊的な証拠を握らなければなりません。神様は、神様の子どもに必ず答えられます。神様のみことばは完ぺきです。それで、そのみことばの証拠を握らなければなりません。神様は神様の子どもを最後まで守って、導いてくださいます。その上に、神様は一度も伝道者を捨てられたことはなく、そのまま放っておかれたこともありません。この結論を握って、みことばについて行くべきです。

まず福音から味わわなければなりません どのように福音を味わわなければならぬのでしょうか。みことばの中で福音を味わわなければなりません。神様のみことばの核である福音を悟らなければなりません。ユダヤ人は、神様のみことばを信じると言ったのですが、福音をのがしたので、完全にほろびるしかありませんでした。歴史の興亡盛衰は、福音を基準にして反復されてきました。福音が薄くなって、なくなる時ごとに災いが臨み、福音が回復するとき全てのものが回復しました。この歴史の中で福音を味わうべきです。そして、普段に私たちの生活の中で福音を味わわなければなりません。すべてのこと、事件、問題、出会いの中には、必ず神様の計画が隠されています。それを福音の目で見て探

して味わうべきです。大きい答えがきた時も、パウロは「ローマも見なければならぬ!!」という神様の新しい計画を見つけて、兵士として、競技する者として、農夫の姿勢を持って福音を味わいました。

そして、祈りで味わえば良いのです 3つのことを確かに教えなければなりません。**最初**、黙想から始めなければなりません。本当にこれが福音と合うのか。私の状態は何か。これをいつも分析するのが黙想の中で最も重要な黙想です。みことばを握って黙想するとき、みことばと現実の中で答えが出てくるようになります。**二つ目**に、定刻祈りを通して実際に私の生活のリズムが祈りの中に入ることです。実際に、祈りの中で私を見つけて、私の規律と実践の部分をそろえるのです。そして、とても重要なことは何かを考へてみるのができなければなりません。**三つ目**、定刻祈りのリズムに乗っていると、深い祈りを通して力を受けて、癒される働きが起きて、神様の力で変化する働きを体験するようになります。今から私の祈りの時間、私の祈りの方法を持って、私だけの聖霊に満たされる奥義を味わわなければなりません。

今は眠りからさめる時です 弟子とは何でしょうか。弟子とは、神様の約束を握って人を生かす人です。なるようにする人です。私の生涯に一度、伝道の中で会うようになるその人が祝福を受けるように、なるようにさせてあげなければなりません。今、数多くの人々が、福音を聞かず死んでいっています。正確な福音を聞くことができなくて、霊的問題に苦しめられています。今は滅びを受ける眠りから覚めて、サタン願いを打ちくだかなければなりません。時代ごとに福音がなくなって、教会が崩れて災いがくることに目覚めて備えなければなりません。**福音の中に全てがあるという事実、一つだけ握って行けば良いのです。**

説教 柳光洙牧師, 整理 チャ・ドンホ牧師

毎日毎日の森の泉

30日(月) 神様の怒りとあわれみ(ローマ9:19-29)
暗やみと混とんとむなしさの御怒りの下にいた私たちに、神様が創造の光でキリストを送ってくださって、暗やみの勢力を打ちこわして、十字架で私たちのすべての罪と問題を解決して、復活されることによって、キリストという証拠を見せてくださいました。今日もキリストを主と告白する者には聖霊で動かれます。

1日(火)伝道者の伝道の働き(使徒1:8)
伝道の働きを体験しようとするなら、私の無能さ、環境、人、教会という障害物を越えなければなりません。解答はキリストです。福音に勝つ問題はこの世にはありません。それで、伝道者は定刻祈りを通して、今日の答え、今日のみことば、今日の伝道を見つけ出せば、必ず働きが起きるようになっていきます。

2日(水)三つのことの証人(使徒1:1-8)
証人は持っているものを与える者で、見たことを言う者で、なることを言う者です。私たちは出会う多くの人々にイエスがキリストであることと神の国、聖霊の満たしの働きをあかしする完全福音、完全祈り、完全伝道の証人です。

3日(木)祈りと霊の世界(1コリント2:1-12)
私たちは世の中の霊を受けたのではなく、ただ神様から来た霊を受けた神様の子どもです。神様の子どもに起きるすべての問題には、より良い神様の計画があります。霊的事実を握って祈るとき、必ず聖霊で内住して、導いて、働かれるようになっていきます。

4日(金)福音は弟子を誕生させます(使徒6:1-7)
初代教会は、福音を持った弟子を通して現場を変化させました。彼らは、聖霊の満たし、知恵の満たし、信仰の満たしを持って、ただ福音と、ただ伝道にいのちをかけて献身しました。聖霊は、彼らに主の使いを送って弟子を付けて、暗やみ勢力を砕いて、地域ごとに伝道と宣教の門を開けてくださいました。

5日(土)姦淫してはならない(出20:14)
カーネギーはお金の問題が解決されれば人生問題70%が解決されると言いましたが、姦淫問題が解決されれば、事実上、家庭問題の70%は解決されます。子どもの異性問題や結婚、夫婦関係は、神様が祝福のために与えてくださった根本的な契約であることを悟らなければなりません。

週間メッセージ

産業宣教：重職者伝道企画(使徒6:1-7)
伝道学：福音を味わう方法(マタイ16:16)
核心訓練：福音ではない別のことを味わう人々(使徒11:1-18)
聖日1部：あかしの箱(出25:10-22)
聖日2部：眠りからさめるべき時刻(ローマ13:11-14)



いつかは必ず来る ある日

イラスト_ユン・スルギ

ある青年を知っている。その両親が、長い間、教会に通っていたので、彼も当然、教会に通っていた。しかし、宗教生活と変わらない生活を送っていた彼には、信仰生活は一つの面倒な荷物でしかなかった。両親の職分が自分のことではないのにもかかわらず、両親の職分と敬けんさには及ばない彼の信仰を見て、人々が送る痛い視線は、いつも負担であった。しかし、宗教の要求に従いながらさまよう中で、彼が見たのは、自分と同じく、ともに立てない若者たちが、崩れて押さえられている残念な現実であった。

ある日、義務的に聞いたメッセージで、彼は人生の当然の苦しみの意味を発見して、サタンのしわざで人生が縛られているしかないという事実を悟った。それなら、道ははたしてあるのだろうか。数えきれないほど、多くの宗教と哲学の叫びは、はたして、絶対的な問題の真の解答になることができるのか、という質問をするようになった。部分的な願いの成就と豊かさ、悩み解決程度で終わるのではなく、完全な人生の解答となる道は、はたしてどこにあるのかという飢え渇きが彼を集中するようにさせた。

結局、問題の現実の前で、福音の事実性に飢え渇くようになったので、とうとう、この青年はいのちの目が開きはじめた。とても眠いだけだと感じていた説教を通して、キリストを発見したのだった。説教は疲れる自分を寝させてくれる睡眠薬ではなく、人生が行かなければならない道を知らせる正確なメッセージとして迫ってきたのだ。世の中で必死に探した解答が、彼の近くにあったのだ。彼が自分からキリストを訪ねて行って会ったのではなく、キリストが彼のそばにおられて、ただ彼は目を開いてそれがキリストであることを分かっただけであったのだ。

したがって、彼にキリストはすべてのすべてであった。彼はその喜びと感激を自分が好きな歌で作った。

「ある日、知りました。主がキリストであると。ある日、知りました。道、真理、いのちなる方を」（後略）

この青年の歌は賛美になって、キリストに会った人々の自分の告白になった。以前、ウクライナに行った時、一人だけの楽しみでこの賛美をロシア語で歌った記憶があるが、この曲は今、アメリカの賛美の歌にも挿入されていて、多くの人々の信仰告白的な賛美として位置づけられるようになっている。

今は立派な伝道者として生きている一人の青年の事実に悩みに会って下さった神様は、今日、だれかの願いや関心に深くかかわってくださる準備ができています。弱いならば弱いまま、苦しければ苦しきまま、病気になったら病気のまま、その方に会いさえすればよい。人々は一生、重要な時間を待っている。軍隊に行った息子を待っていたり、試験を受けた人は合格を待っていたり、一生の伴侶を求めたり、病床にいる人は癒しを望みながら、ロト宝くじを買って大当たりを夢見たりもする。

このように、多様な出会いの機会が一生の歩む間に、人に機会として与えられるが、結局、人生はある日、自分自ら息ができない日が迫ってくる。その日が、結局、いつかは来るある日だ。しかし、人生の価値をいのちに置いて、自分の意味を最高の座に置こうと思う者の願いは、いつか必ず来るある日を、最も祝福された日に作るができるのだ。いつか必ず来るある日を、キリストに会う日にする人がいるならば、この青年が味わった喜びは、同じように自分のことになる。今日がまさにその日、あなたのある日になることを期待する。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ